

跳躍種目におけるリザルトスコアとプレイングスコアの関係

小山 宏之¹⁾

荻山 靖²⁾

1) 京都教育大学

2) 山梨学院大学

1. パリ五輪の参加資格からみる跳躍種目でのリザルトスコアとプレイングスコアの関係

図1および2はパリ五輪参加のためのワールドランキング有効期間終了時(2024年6月30日時点)における、跳躍各種目の100位までリザルトスコアとプレイングスコアの関係について示している。両者の関係を考える材料として、ランキング1～10位(G1), 11～20位(G10), 21～30位(G20), 31～40位(G30)というようにランキング10位ごとに平均値を出しプロットしている(◆)。

また、図には実線および点線で右下がりの斜線を引いているが、この線は実線がランキング20位のパフォーマンススコアのライン、点線がランキング30位のラインを示している。パリ五輪のターゲットナンバー(TN)は32であり、東京世界陸上のTNは36であるが、1つの目安として30位ラインのスコアを見ると、種目間で多少のばらつきはあるが、1200ポイントを超える程度のスコアが必要になっている(なっていた)ことがわかる。

全体の関係としては、いずれの種目においてもランキングがあがるほどリザルトスコアとプレイングスコアが高くなっている。つまり、より記録上位の選手は高いカテゴリの競技会にエントリーでき、高いプレイングスコアを獲得していたことを示す。一方で、五輪参加のボーダーに近い30位ライン前後のグループのリザルトスコアとプレイングスコアの獲得状況に着目すると、パリ五輪時では種目によって異なる様相を示していた。例えば、男子走幅跳(図1右上)を見ると、G30とG20ではリザルトスコアにそれほど相違はないが、プレイングスコアでG20がより大きいポイントを獲得している傾向にあった(同様の傾向として、女子走高跳など)。一方で、男子棒高跳では(図1右下)、G30とG20の間でプレイングスコアにそれほど相違はなかったが、リザルトスコアにおいてはG20がより高いポ

イントを獲得している傾向にあった。

また、G20のプレイングスコアを種目間で比較すると、女子走幅跳(図2右上)や女子走高跳(図2左下)のように100ポイントに近い(Bランク1位, Aランク4位相当)種目から、男子棒高跳(図1右下)や女子棒高跳(図2右下)のように70ポイント前後(Bランク3位, Cランク1位相当)の種目も見られた。つまり、いずれの種目においても記録を高めてリザルトスコアを獲得していくことは必須であるが、参加のボーダー付近においては、高いカテゴリの競技会に出場することでのスコアの獲得がより効いていた種目と、競技会のカテゴリはそれほど高くなくとも、高い記録を揃えることでのリザルトスコアの獲得がより効いていた種目があったと考えられる。

2. オレゴン世界選手権からパリ五輪までの参加ボーダー付近のスコアの変化

表1は男子跳躍種目における、オレゴン世界選手権、プタペスト世界選手権、パリ五輪の参加のためのワールドランキング有効期間終了時のスコアについて、TNの順位のスコアおよびG20のスコアを示したものであり、表2は同様のデータを女子について示したものである。この表からパフォーマンススコアの推移を見ると、ほぼ全ての種目において、オレゴン、プタペスト、パリの順にパフォーマンススコアが上がっていることがわかる。また、G20についてはリザルトスコアとプレイングスコアも示しているが、男女走幅跳、三段跳、走高跳では、リザルトスコアはほぼ変わっていないが、プレイングスコアは大きくなっており、プレイングスコアの変化がパフォーマンススコアの増加に影響が大きかったと言える。特に女子走幅跳ではオレゴンの63ポイント(Cランク1位相当)からパリの94ポイント(Bランク1-2位相当)のように大きく変化

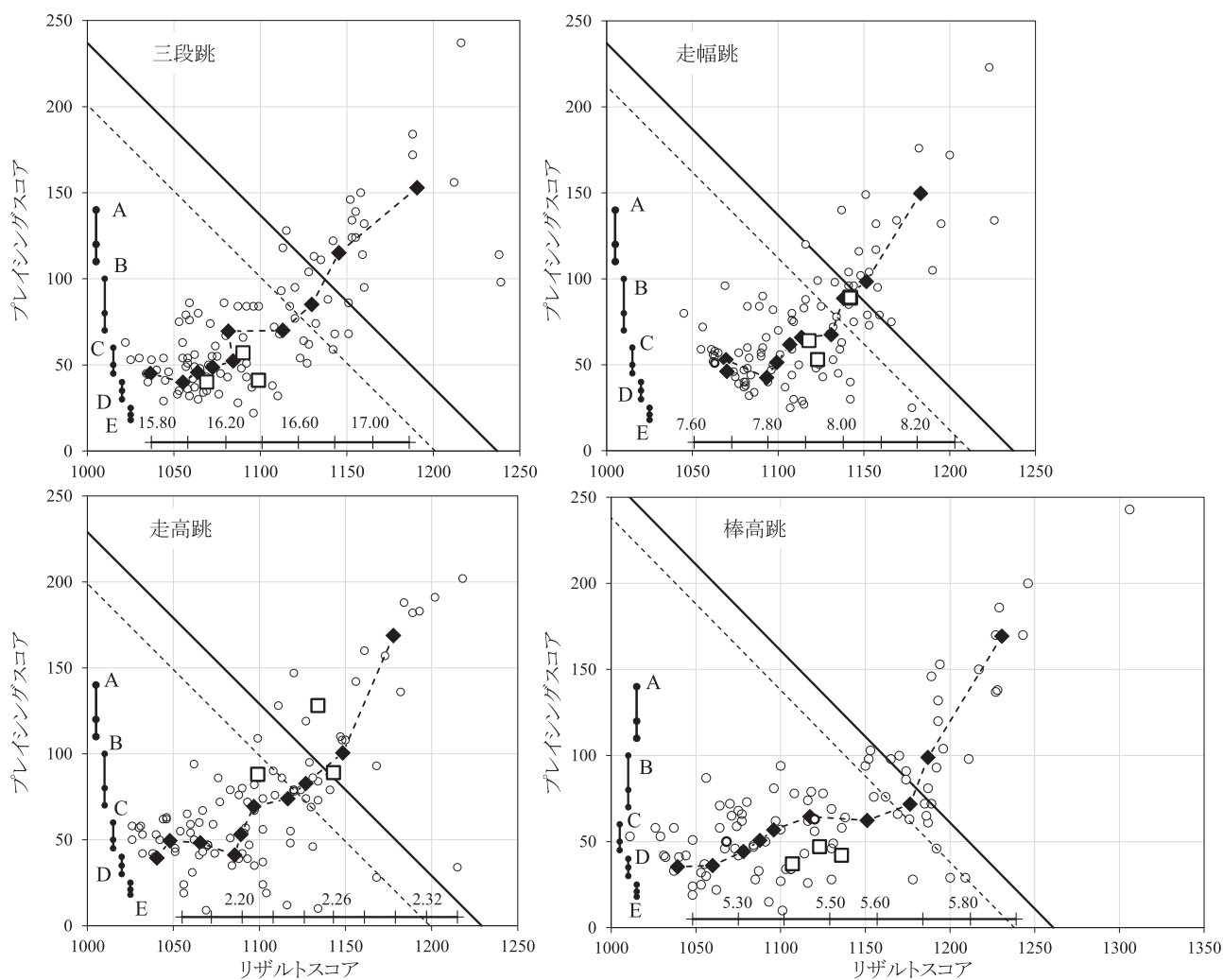


図1 男子跳躍種目における，パリ五輪参加のためのワールドランキング有効期間終了時のリザルトスコアとプレイシングスコアの関係

※◆はランキング 10 位ごとの平均値

※プレイシングスコアの A ～ E は競技会カテゴリーごとの 1 位～ 3 位のスコア

※リザルトスコアの ++ は各スコアに対する記録，

※□は日本の上位 3 選手のスコア

※斜線の — はランキング 20 位， - - - は 30 位のパフォーマンススコアを示すライン

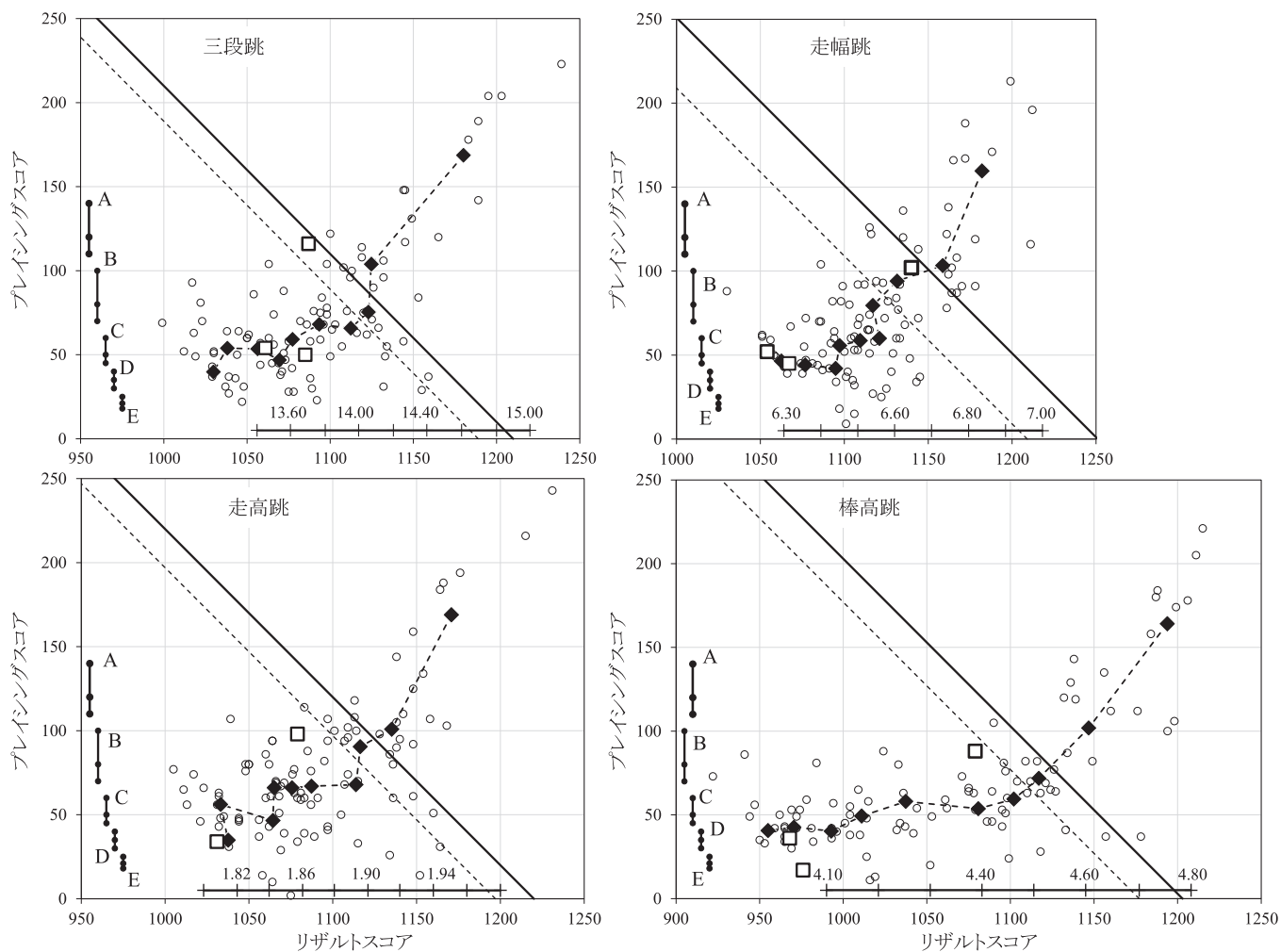


図2 女子跳躍種目における，パリ五輪参加のためのワールドランキング有効期間終了時のリザルトスコアとプレイシニングスコアの関係

※◆はランキング 10 位ごとの平均値

※プレイシニングスコアの A ～ E は競技会カテゴリーごとの 1 位～ 3 位のスコア

※リザルトスコアの ++ は各スコアに対する記録，

※□は日本の上位 3 選手のスコア

※斜線の — はランキング 20 位， --- は 30 位のパフォーマンススコアを示すライン

表 1 男子跳躍種目における，オレゴン世界陸上，ブタペスト世界陸上，パリ五輪参加のためのワールドランキンング有効期間終了時のパフォーマンススコアの比較

		オレゴンWC	ブタペストWC	パリOR
MHJ	G20	1198(1133, 65)	1200(1130, 70)	1210(1127, 83)
	TN	1168	1170	1199
MPV	G20	1232(1157, 75)	1221(1161, 60)	1248(1176, 72)
	TN	1201	1192	1235
MLJ	G20	1199(1132, 67)	1210(1138, 72)	1227(1138, 89)
	TN	1186	1189	1204
MTJ	G20	1203(1132, 71)	1184(1117, 67)	1215(1130, 85)
	TN	1177	1160	1190

※G20はランキンング21位から30位の平均

※括弧内の数値は左側がリザルトスコア，右側がプレイシングスコア

※TNはターゲットナンバーの順位のスコア(オレゴン，パリ，32位;ブタペスト，36位)

表 2 女子跳躍種目における，オレゴン世界陸上，ブタペスト世界陸上，パリ五輪参加のためのワールドランキンング有効期間終了時のパフォーマンススコアの比較

		オレゴンWC	ブタペストWC	パリOR
WHJ	G20	1182(1110, 72)	1174(1110, 64)	1207(1116, 91)
	TN	1156	1153	1195
WPV	G20	1171(1107, 64)	1177(1108, 69)	1189(1117, 72)
	TN	1145	1153	1174
WLJ	G20	1190(1127, 63)	1204(1127, 76)	1225(1131, 94)
	TN	1172	1189	1204
WTJ	G20	1167(1103, 64)	1179(1118, 61)	1198(1123, 75)
	TN	1140	1154	1184

※G20はランキンング21位から30位の平均

※括弧内の数値は左側がリザルトスコア，右側がプレイシングスコア

※TNはターゲットナンバーの順位のスコア(オレゴン，パリ，32位;ブタペスト，36位)

表 3 男女跳躍種目における，ワールドランキンング 20 位台を踏まえたリザルトスコアと対応記録（5 試合の平均値）

種目	リザルトスコア	対応記録	種目	リザルトスコア	対応記録
MHJ	1143	2.26	WHJ	1121	1.90
	1135	2.25		1111	1.89
	1126	2.24		1101	1.88
MPV	1184	5.70	WPV	1114	4.50
	1171	5.65		1111	4.49
	1157	5.60		1099	4.45
MLJ	1149	8.05	WLJ	1141	6.65
	1138	8.00		1130	6.60
	1127	7.95		1119	6.55
MTJ	1143	16.80	WTJ	1128	14.10
	1130	16.68		1117	14.00
	1122	16.60		1107	13.90

※網掛けのスコアが表1および2のG20のスコアを踏まえた値

※参考値として，前後の記録とスコアも表記した

している種目も見られた。一方で、男女棒高跳ではリザルトスコアの変化の方がパフォーマンススコアの増加に影響している傾向が見られた。前項の図1および2の結果から、パリ五輪参加のボーダーにおいてプレイングスコアの獲得がより効いていた種目が多かったことを指摘したが、過去の大会からの推移を見た場合においてもボーダーにかかるプレイングスコアの重要性が高まっていることが推察される。

ここまでの議論を踏まえると、種目間での各スコアの獲得傾向の相違が見られた理由や、同様の傾向が今後の国際大会でも見られるかについては示すことはできてはいないが、今後もそれぞれの種目の各スコアの動向に注目しながら、スコアの獲得に対する戦略を考えていく必要がある。最後に、表3は表1および2のG20のリザルトスコアを踏まえて、ワールドランキングでの参加に安全圏となるであろうランキング20位台を目指した、各種目での目標リザルトスコアと記録、およびその前後の記録でのリザルトスコアを示している。本稿の内容が国際大会参加に向けた戦略の立て方の材料の1つとなれば幸いである。